

令和2年度

時間外電話相談  
「育児もしもしキャッチ」  
—相談情報分析結果報告—

あいち小児保健医療総合センター

あいち小児保健医療総合センター保健センターでは、平成13年11月のオープン時より、県民の育児不安を軽減し、健やかな子育てを支援することを目的に、時間外電話相談「育児もしもしキャッチ」（以下、「育児もしもしキャッチ」）を開設している。

開設当初の体制は、月曜日から金曜日まで開設していたが、当センターの外来診療日の変更に伴い、平成15年5月より火曜日から土曜日に相談日を開設しており、電話相談員の体制も1日当たり3人として実施してきた。しかし、令和2年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、一時休止を経て年度途中から週3日2人体制に縮小して実施した。

### 「育児もしもしキャッチ」

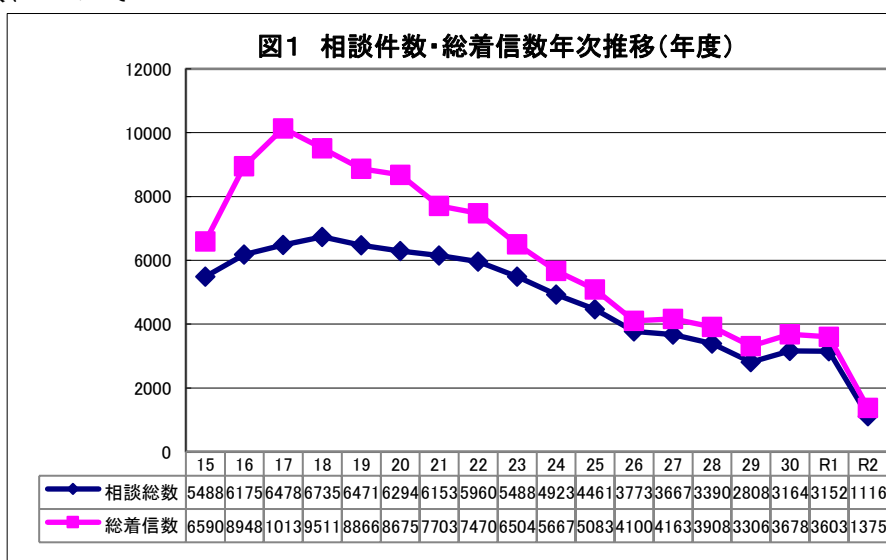
主な相談内容	母子健康手帳を活用する年齢層の母等を対象に、健康や育児について
開設日時	火曜日から土曜日 午後5時から午後9時まで（4時間） ※令和2年4月下旬～6月末中止。7月から再開。 9月中旬より水曜日から金曜日 午後5時から午後9時まで（4時間）
相談担当者	保健師、助産師、看護師等の専門相談員が、毎回3人で対応 ※9月中旬より毎回2人で対応。
相談体制	当センターの保健師1名が相談終了まで勤務する体制をとり、困難な相談への助言、連携の必要なケースを地域に繋ぐ役割等、相談員をバックアップしている。
相談記録の記載方法	相談は原則匿名としているが、相談終了時に相談者の居住地、相談経路を聞いている。電話相談員が相談記録を記載し、予め設定されている「相談内容分類コード」に従い内容の分類を行っている。
相談の周知方法	各市町村にて乳幼児健診や育児相談、家庭訪問等の際に案内カードを母等へ配布するほか、当センターのホームページに案内を掲載している。

### 【令和2年度の事業内容】

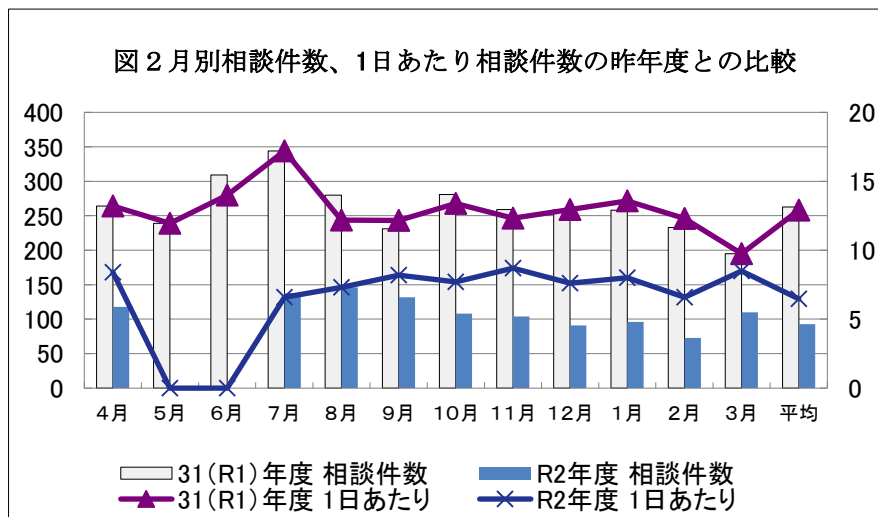
令和2年4月1日から令和3年3月31日までに寄せられた相談情報を保健部門のシステムに入力し、地域別利用数や相談者、相談時間、相談内容等に注目して分析した。

#### 1 相談総数・総着信数について

期間中の相談総数は1,116件、総着信数（間違い電話等を除き、電話に応答中のため応答できなかった件数をあわせたもの）は1,375件であった。令和2年度の相談件数は、相談の一時休止等もあり大幅に減少した。開設後の平成14年度（平成13年11月から平成15年3月、以下平成14年度と表記）以降の相談件数は、平成18年度まで増加し、その後は平準状態となり近年は減少の傾向にある。また、平成17年度がピークであった対応不能件数（総着信数 - 相談件数）は減少してきている。今年度の対応不能件数は259件で昨年度の451件より192件減少したが、2割弱（18.8%）の相談に対応不能の状態である（図1）。



月別相談件数では、令和2年度は4月下旬から6月末まで新型コロナウイルス感染症の影響で中止。さらに9月中旬から相談員数を3人から2人へ縮小したため、単純に平成31年度との比較はできない。7月8月は例年と条件が同じであるため比較が可能であるが、いずれの月の相談件数も平成31年度と比べ半数以下の約140件となっている。



1日当たりの平均件数は5.6件で昨年度13.1件の約半数となっており、相談件数と同様に大幅な減少傾向にある(図2)。

## 2 地域・経路について

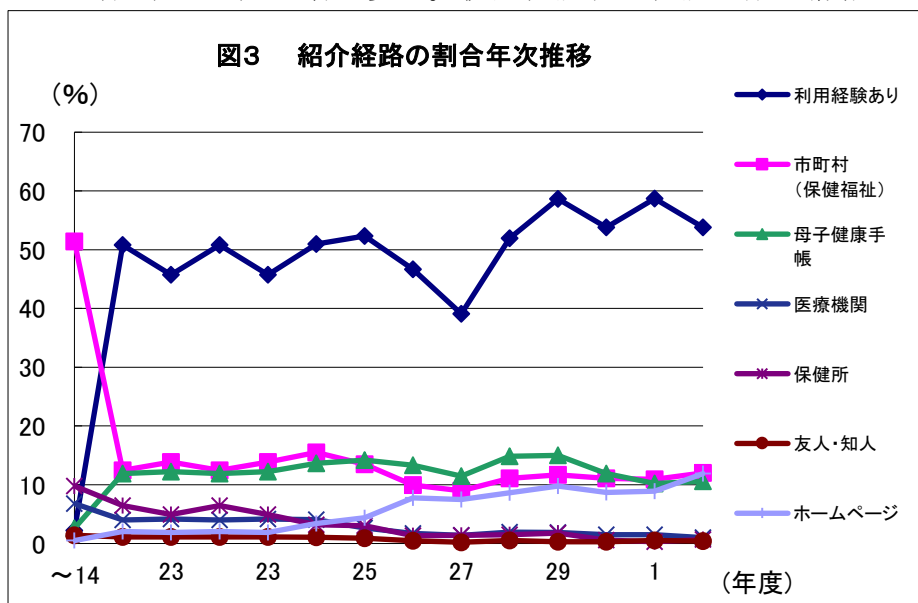
### (1) 利用者の居住地について

相談者の居住地が把握できた1,038件を分析した。相談は県下ほぼ全域から寄せられており、市町村別では、名古屋市(313件)、蟹江町(61件)、刈谷市、豊田市、岡崎市(各47件)の順に多かった。平成31年度と比較し大幅な減少が見られたが、相談の休止、開設日の縮小による影響が大きい。

相談件数の出生1,000に対する割合をみると、最も高いのは蟹江町の201.3(昨年度186.4)で2番目は設楽町の133.3(昨年度0)、3番目は田原市の44.3(昨年度29.9)であった。また、県外からの相談は11件あった(資料:表1)。

### (2) 経路について

「利用経験あり」が598件(53.6%)で最も多い。初回相談者が相談電話の情報を入手した方法は、市町村(保健福祉)からが133件(11.9%)、母子健康手帳交付時にももらった「案内カード」によるものが118件(10.6%)など、保健機関からの情報によるものが初回相談者の約半数を占めている。インターネット、スマートフォンの普及によりホームページからの情報が132件(11.8%)で、その割合は平成24年度より漸次増加している。また、県外からの相談11件のうち、ホームページからの情報、利用経験ありで各々5件(45.4%)であった(図3、資料:表2)。



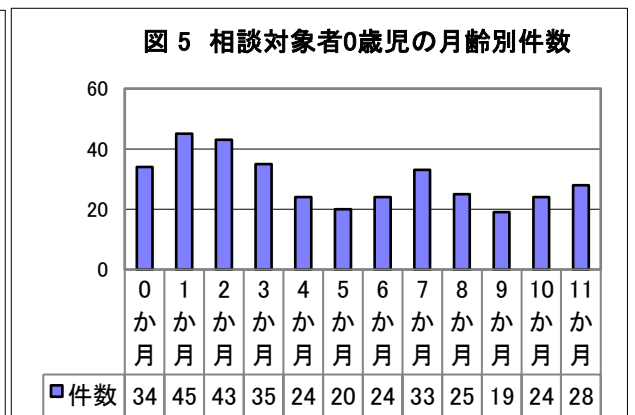
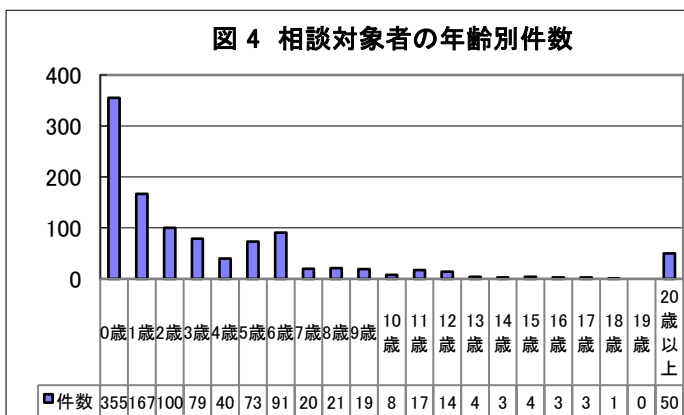
### 3 相談者・相談対象者について

相談記録では、相談者（電話をかけてきた人）の続柄を相談対象者との関係から本人、母、父、配偶者、祖父母等、兄弟、専門職等、その他と分類しているが、母からの相談が 996 件（89.2%）と最も多かった（資料：表 3）。

相談対象者は「子ども」が 1,049 件（94.0%）であった。また、「本人」（母自身のことに関する相談など）は 61 件（5.5%）であり、経年的にみてもほぼ同様の傾向であった（資料：表 4）。

相談対象者の年齢では、0 歳が 355 件（31.8%）と最も多く、次いで、1 歳が 167 件（15.0%）、2 歳が 100 件（9.0%）、6 歳が 91 件（8.2%）で、7 歳以降の対象者に関する件数は、年齢の上昇に伴い概ね減少していた（図 4）。

0 歳児の内訳を見ると 1 か月頃をピークに減少しており、経年的に見てもほぼ同様の傾向であった（図 5）。



### 4 相談の時間帯・所要時間・曜日について

#### (1) 時間帯・所要時間について

相談の時間帯は 18 時台が 325 件（29.1%）と最も多く、次いで 17 時台が 289 件（25.9%）、19 時台が 285 件（25.5%）、20 時台が 217（19.4%）となっており、おおよその時間帯にも平均的に相談がされていることがわかる。

相談の所要時間は、5～14 分が 583 件（52.2%）と最も多く、次いで 15～29 分が 226 件（20.3%）であった（資料：表 5）。

相談内容により、所要時間は異なり、子どもの病気・手当や事故相談では平均して時間が短く、育児不安を含む家族・人間関係や教育、発育・発達の相談等では、所要時間が長くなっている。

#### (2) 曜日について

9 月中旬より水曜日から金曜日までの対応となったため、火曜日、土曜日の件数が少ないことに矛盾はない。平成 31 年度は曜日による 1 日あたりの相談件数に偏りがほぼ見られないにもかかわらず、令和 2 年度では火曜日・土曜日が少なくなっている。令和 2 年度の水曜日、木曜日、金曜日は 1 日あたり約 6～7 件であったのに対し、火曜日は 3.8 件、土曜日は 4.6 件となっている。（資料：表 6）。

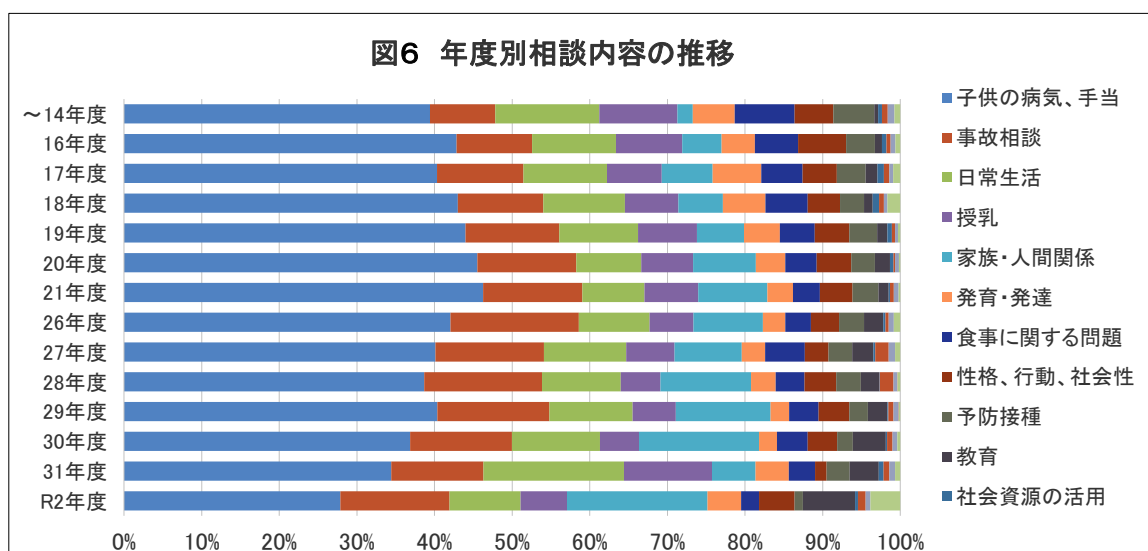
### 5 相談内容について

#### (1) 相談内容について

相談員が相談記録作成時に分類した相談内容では、「育児相談」が 1,066 件（95.5

%)と大半を占め、次いで「母性相談」19件(1.7%)、「思春期相談」13件(1.2%)の順であった。平成31年度と比較すると、「母性相談」が増加し、「家族の心と体の相談」が大きく減少した(資料:表7)。

「育児相談」1,066件の内訳は「子どもの病気、手当て」が311件(29.2%)と最も多く、次いで「家族・人間関係」の201件(18.9%)、「事故相談」168件(15.8%)、「日常生活」の99件(9.3%)の順で多かった。相談内容の推移から「子どもの病気・手当」「事故相談」「予防接種」といった子どもの病気や体調に関する相談の割合が24年度まで年々増加し、合計で68.6%となっていたが、24年度に365日体制、27年1月に夜間実施時間が延長した『小児救急電話相談(#8000)』が住民へ浸透したためか、令和2年度は46.1%と減少し続けている。(図6)。



## (2) 育児相談の内容について

本年度の育児相談1,066件の主な内容について資料:表9に示した。

### 1) 「子どもの病気、手当て」311件(29.2%)

目の前の子どもの症状、病状への対応についてのアドバイス、受診の要否についての相談が多く、熱や鼻汁等のかぜ症状、下痢、嘔吐等の消化器症状、発疹等の皮膚症状、インフルエンザ等の感染症の順に多かった。また、処方された薬の飲みせ方や使い方等の薬に関する相談6件も含まれている。全体に占める割合は開設当初40%を超えていたが、令和2年度は3割弱と大きく減少している。

<相談例>

- ・ 1歳2か月男児。発熱あり肩で息をして辛そうで食欲もない。どうしたらよいか。
- ・ 4歳児と1歳児。蝙蝠がベランダにやってくる。ネットをしたがフンを落としていく。子供に何か病気が移ることはあるか。
- ・ 7歳児、3年前にマイコプラズマ肺炎にり患。コロナは大丈夫か不安。
- ・ 1か月児。里帰り中。実弟が帯状疱疹にり患。児への感染が心配。

受診するべきかを問う相談や、どう行動すべきか意思決定をするための相談が多く、「かかりつけ医を受診し、内服薬や坐薬をもらってあるが不安。」といった電話も少なくない。保護者が現状をどう捉えているかをよく聴き、今できていることを認めることも重要である。家庭看護力の低下が指摘されている中、発熱の生理的意味から、“様子を見る”とはどういうことか、受診に切り替えるタイミングまでを

十分に説明する等、保護者をエンパワメントできる相談となるよう心掛けている。

### 2) 「家族・人間関係」 201 件 (18.9%)

昨年度に比べ、割合が増加している。「育児不安」が 115 件 (57.2%) で最も多く、次いで「家族内の人間関係」 64 件 (31.8%)、「近所との付き合い方」 13 件 (6.5%) であった。

「育児不安」では、1 歳児の母から「子供を叱ってしまうダメな母親。母自身両親の虐待にあい養護施設で育っている。独身時のパニック障害は治まっていたが出現するようになりどうしたらよいのか。」という相談や、2 歳児の母からは「母の姿が見えないと大泣き。母の両親は離婚し祖父母に育てられた。母は頑張っているのに父にダメと言われると悲しい。友人もいない。」といった自身の複雑な悩みを含む相談や新型コロナウイルス感染症の影響で子供や夫が家にいる時間が長くなったことによるイライラ等の相談も見られた。「家族内の人間関係」では、「夫が育児に非協力的」「夫や夫の親との関係性」「離婚後の実の親との関係性」「親の介護と育児」に関する相談が多く、「話を聞いて欲しい」との訴えがあった。「近所との付き合い」では、近隣住民やママ友、同級生の両親等、子どもを介して広がる社会に対するストレスに関する相談が多かった。

これら「家族・人間関係」の相談では、151 件 (75.1%) が「利用経験あり」であり、繰り返し相談する利用者が多いことがわかる。また、相談の開設当初、相談内容の約 5% 弱の割合であったのに対し、令和 2 年度では 18.9% まで増加している。このことからこれらの悩みを抱える保護者の相談の受け皿となっていることがうかがえた。

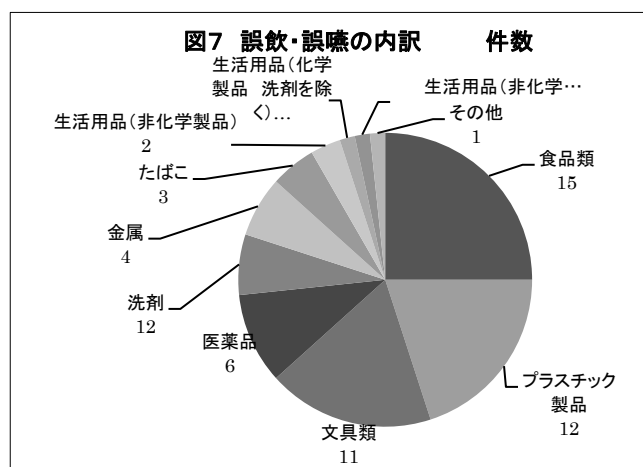
### 3) 「事故相談」 168 件 (15.8%)

「誤飲・誤嚥」が 60 件 (35.7%) と最も多く、次いで「転落」が 47 件 (28.0%)、「衝突」「転倒」と続く (表 9)。また、事故相談全体で 1 歳未満の子どもについての相談が 69 件 (41.1%) と高い割合を占めていた。

#### < 誤飲・誤嚥 >

誤飲・誤嚥も内容により、緊急性が異なる。その内容を図 7 に示す。

- ・「食品」14 件中、魚の骨、果物が 3 件 (21.4%) (果物を喉に詰まらせる) と最も多く、肉が 2 件 (14.3%)、酒類、イモ類、きのこ類、サプリが各 1 件 (7.1%) であった。
- ・「プラスチック製品」12 件中、おもちゃが 5 件 (41.7%)、包装 (ペットボトルのラベルやラップ等) 各 2 件 (16.7%)、その他、破片等があった。
- ・「文具類」11 件中、紙類、ビニール類が各々 3 件 (27.3%) で、その他、シールがあった。
- ・「医薬品」6 件中、1 歳児・3 歳児が各々 2 件、2 歳、5 歳が各々 1 件ずつであり、1 歳未満の相談はなかった。「市販の鎮痛薬を飲んでしまった」「本人に処方された薬を規定の回数より多く飲ませてしまった」が各々 2 件 (33.3%)、「大人用の薬を飲んでしまった」「気が付いたら本人に処方された薬を 15 回分飲んでしまったよう」が各々 1 件 (16.7%) があった。



<転落・転倒>

・「転落」47件中、ベッド等の家具からが16件(34.0%)、ソファ等を含めた椅子からが12件(25.5%)、階段が6件(12.8%)であった。「ベビーカーの前方に母の体重が載ってしまいベビーカーがひっくり返り転落した」ケースや、「母の抱っこから手が滑り転落」があった。

・「転倒」18件中、居室での転倒が12件(66.7%)と最も多く、次いで風呂2件(11.1%)、道路・公園・ベランダが各々1件(5.6%)と続いた。居室では、つかまり立ちや歩き始めでバランスを崩し、床や机に額や顔面、頭をぶつけたケースや、お座りで前や後ろに倒れて額や後頭部を打撲したケース、兄弟喧嘩で転倒、柱の角で側頭部を打撲したケースがあった。

<熱傷>

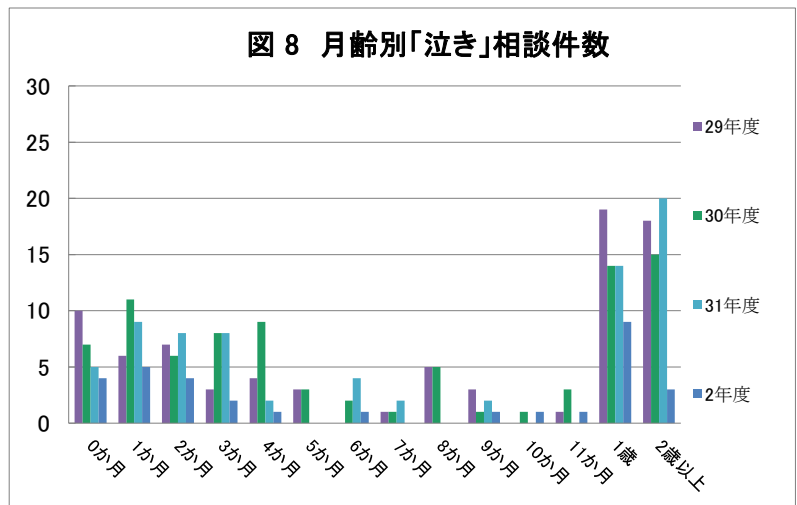
・熱傷1件。2歳児が食事中に味噌汁が顔面にかかり熱傷となったケースで皮膚科に電話して相談するように勧めた。

事故相談では、保護者の事故に対する焦りや自責の気持ちに寄り添い、状況を的確に捉えて、冷静な対応を促す。乳幼児の事故相談は、環境整備により防ぐことが可能なものが大半である。起こったことを客観的に振り返ることが次の事故の予防となることを啓発する必要性を感じる。

4) 「日常生活」は99件(9.3%)

「泣き」の相談が33件(33.3%)と最も多く、0歳児の相談が20件(60.6%)で、そのうち0~6か月の相談が17件(85.0%)と多く認められた(図8)。

『乳幼児揺さぶられ症候群』の予防のためにも、生後6週間くらいから見られる夕暮れ泣き(『PURPLE CRYING』)への対応策を早い段階から啓発する必要性が示唆される。



<相談例>

- ・ 1歳男児。夜泣きがひどい。離乳食は3回食でよく食べるが、昼寝の時間がバラバラで生活リズムが整わない。他の人にはなかなか相談できない。
- ・ 6か月児。夕方になると泣いて泣いて嘔吐するほど泣くが原因不明。夜間救急へ受診したが、異常なし。今夕も手の付けられないくらいに泣き、どうしたよいか。

以下、「睡眠」に関する相談が10件(10.1%)、「トイレトレーニング」「しつけ」が各々9件(9.1%)と続く。

5) 「授乳」58件(5.4%)

「授乳方法」に関する相談は26件(44.8%)認められ、授乳回数、間隔、量、眠りとの関連等の相談が主であった。

#### <相談例>

- ・ 母乳の出が悪いのでミルクを足すようになったがミルクを嫌がる。母乳をやめてミルクのみにした方がよいのか。
- ・ 2 か月児。混合栄養で進めているが体重増加が悪い。かかりつけ医や保健師には相談中。ミルクを与えようとするすると体を反らして哺乳瓶を嫌がる。

次いで、「吐乳、溢乳」18件(31.0%)、「乳汁を飲まない」「授乳と薬」が4件(6.9%)と続く。「授乳と薬」では、体調が悪い辛さに加え、授乳に悩む辛さに寄り添い、根拠に基づいた適切な助言ができるよう努めている。

#### 6) 「性格、行動、社会性」51件(4.8%)

昨年度に比べて割合は増加している。「言うことを聞かない」が32件(62.7%)で6割以上を占め、次いで「落ち着きがない」が7件(13.7%)、「習癖」が3件(5.9%)であった。

#### <相談例>

- ・ 3歳児。外出時にたまごっちに夢中であるため注意したら、店の外へ飛び出した。下に7か月児がいるため一旦帰宅し探しに出たが見つからず戻ったら帰宅していた。母の叱り方で激しく反応するのでどうしたらよいのか。
- ・ 小2の児童。母を試すように母の困ることを言い出し、交換条件に自分の要求をのむように言ってくる。
- ・ 6歳児。母は仕事で疲れているのに、わがままを言って食べない。テンション高くはしゃいでいる。排便はおむつです。

#### 7) その他

「予防接種」は12件(1.1%)であった。「副反応」の相談では、肺炎球菌、Hib、B型肝炎、ロタウイルス等の同時接種後の一過性の発熱の相談やBCG接種後の発赤腫脹についての相談があった。

「虐待・虐待予防」は9件(0.8%)であり、平成31年度は18件(0.6%)であった。令和2年度の件数は減少したが、割合は微増となっている。

#### <相談例>

- ・ 1歳10か月児。母は児が出生直後から嫌いで何をしてもイライラ、触られるのも嫌で暴言を吐いたり、時に叩いてしまう。夫に相談し、上の子と遊んでもらっている。子育てに向いていないのか。どうしたよいのか。
- ・ 友達の1歳半児。こだわりが強い特徴がある児。親は可愛くないと思っている様子で怒鳴りつけており心配。相談先を紹介しても気乗りしていない。その子を助きたい。

原則、匿名相談ではあるが、気になるケースについては、相談対象が明確でなくともできる限りの情報を用いて地域連携を行っている。

## 6 相談結果について

電話相談は原則匿名で1回の相談での終了が前提となっているため、利用経験がある場合も継続支援とはしておらず、1回で終了としている。



## 7 まとめ

相談件数は平成 18 年度以降減少傾向にある。特に令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症対策のための休止や縮小により激減している。一時休止としたが、再開後も相談件数は伸びず。総件数だけではなく、1 日当たりの件数も激減している。夫の在宅勤務や宴会等の自粛により早く帰宅するようになったことで夫に相談できるようになったことや逆に電話での相談がしづらくなったことも一因と思われる。

また、総務省の調査では、住宅用固定電話の加入数は平成 17 年以降減少している。携帯電話・スマートフォンの普及から、インターネットによる相談にもアクセスが簡便になったことや通話費用負担が大きくなりがちな電話相談の利用が敬遠される状況であることが推測される。

平成 24 年度以降、『小児救急電話相談（#8000）』の住民への浸透に伴い「子どもの病気・手当」「事故相談」が大きく減少しており、本年度も、子どもの体調に関わる内容の相談割合が昨年度に比べて減少している。一方で、「家族・人間関係」についての相談割合は年々大きくなっており、「家族・人間関係」の悩みについて身近に相談できる人がいない状況にある相談者が増えている状況が懸念される。相談記録からは「誰かに話を聞いて欲しい」との訴えも多く、『育児もしもしキャッチ』は育児や人間関係で困っている親の不安や心配、うまくいかない苛立ちを受け止める窓口としての大きな役割を担っている。

本事業は平成 13 年 11 月のセンター開設と同時に開始され、関係機関からも高い認知度と期待を受けて運営されてきた。社会の育児問題が反映されており、ニーズ把握に役立てることができる貴重な機会でもある。県内の小児保健の中核的支援機能を有する当センターの保健事業のひとつとして、今後も継続する必然性はあるが、今後の相談件数の傾向も見ながら相談を求める人とつながれるよう、相談の周知方法や受信方法についても検討をしていくことが必要である。

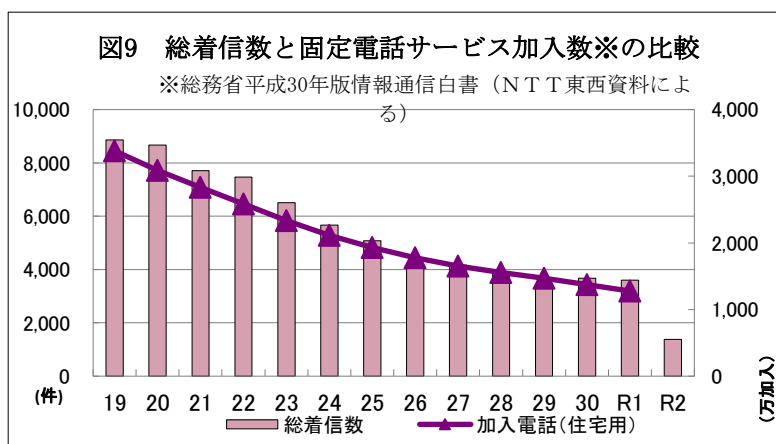


表1 市町村別の利用状況

	市町村	件数	出生 1,000対	R1 出生数		市町村	件数	出生 1,000対	R1 出生数
1	名古屋市	313	17.6	17,740	30	常滑市	7	16.7	419
2	蟹江町	61	201.3	303	31	武豊町	7	23.0	305
3	刈谷市	47	32.5	1,445	32	みよし市	6	11.2	537
4	豊田市	47	14.6	3,229	33	碧南市	5	9.7	515
5	岡崎市	47	15.4	3,055	34	幸田町	5	12.7	395
6	安城市	43	26.2	1,639	35	高浜市	5	13.1	381
7	春日井市	35	14.3	2,445	36	阿久比町	5	22.2	225
8	一宮市	32	11.8	2,703	37	豊山町	5	38.5	130
9	豊川市	30	22.3	1,345	38	扶桑町	5	19.9	251
10	西尾市	24	21.0	1,144	39	瀬戸市	4	5.2	762
11	東海市	22	21.2	1,036	40	尾張旭市	4	6.8	590
12	清須市	21	29.5	712	41	岩倉市	4	9.9	403
13	あま市	19	28.9	657	42	新城市	4	18.8	213
14	大府市	19	20.9	910	43	愛西市	3	9.0	332
15	半田市	19	22.6	841	44	大治町	2	7.2	279
16	日進市	18	20.4	884	45	大口町	2	8.8	228
17	稲沢市	16	17.6	909	46	設楽町	2	133.3	15
18	田原市	16	44.3	361	47	弥富市	1	3.2	315
19	豊橋市	17	6.5	2,635	48	蒲郡市	1	2.2	456
20	知立市	15	22.8	657	49	南知多町	1	16.4	61
21	北名古屋市	13	16.7	779	50	犬山市	1	2.5	405
22	江南市	10	14.5	690	51	美浜町	1	9.1	110
23	豊明市	10	18.9	529	52	飛島村	0	0.0	25
24	長久手市	9	13.9	647	53	東栄町	0	0.0	13
25	知多市	8	14.0	572	54	豊根村	0	0.0	3
26	東浦町	8	23.7	338		県内不明	7		
27	小牧市	7	7.2	976		愛知県下 (含名古屋市)	1,027	16.8	61,230
28	東郷町	7	21.0	334		他県	11		
29	津島市	7	26.7	262		不明	78		
						合計	1,116		

表2 年度別経路

経路	利用経路あり	市町村(保健福祉)	母子健康手帳	医療機関	保健所	友人・知人	ホームページ	子育て支援センター	院内	幼稚園・保育園等	学校	児童相談センター	その他	不明	計
23年度	2,725	828	730	250	295	68	113	29	18	10	2	1	39	380	5,488
	(49.7)	(15.1)	(13.3)	(4.6)	(5.4)	(1.2)	(2.1)	(0.5)	(0.3)	(0.2)	(0.0)	(0.0)	(0.7)	(6.9)	(100.0)
24年度	2,509	762	671	201	158	53	167	32	31	2	1	0	31	305	4,923
	(51.0)	(15.5)	(13.6)	(4.1)	(3.2)	(1.1)	(3.4)	(0.7)	(0.6)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.6)	(6.2)	(100.0)
25年度	2,335	602	632	117	134	41	196	24	28	9	3	2	26	312	4,461
	(52.3)	(13.5)	(14.2)	(2.6)	(3.0)	(0.9)	(4.4)	(0.5)	(0.6)	(0.2)	(0.1)	(0.0)	(0.6)	(7.0)	(100.0)
26年度	2,027	460	537	113	126	14	197	17	22	2	2	0	31	225	3,773
	(53.7)	(12.2)	(14.2)	(3.0)	(3.3)	(0.4)	(5.2)	(0.5)	(0.6)	(0.1)	(0.1)	(0.0)	(0.8)	(6.0)	(100.0)
27年度	1,975	431	509	80	77	27	244	14	9	4	0	0	22	275	3,667
	(53.9)	(11.8)	(13.9)	(2.2)	(2.1)	(0.7)	(6.7)	(0.4)	(0.2)	(0.1)	(0.0)	(0.0)	(0.6)	(7.5)	(100.0)
28年度	1,761	376	503	65	50	17	293	14	6	2	3	1	18	281	3,390
	(51.9)	(11.1)	(14.8)	(1.9)	(1.5)	(0.5)	(8.6)	(0.4)	(0.2)	(0.1)	(0.1)	(0.0)	(0.5)	(8.3)	(100.0)
29年度	1,433	329	420	52	51	8	275	9	7	0	0	1	3	220	2,808
	(51.0)	(11.7)	(15.0)	(1.9)	(1.8)	(0.3)	(9.8)	(0.3)	(0.2)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.1)	(7.8)	(100.0)
30年度	1,722	351	376	49	18	11	275	4	7	2	1	0	9	339	3,164
	(54.4)	(11.1)	(11.9)	(1.5)	(0.6)	(0.3)	(8.7)	(0.1)	(0.2)	(0.1)	(0.0)	(0.0)	(0.3)	(10.7)	(100.0)
31年度	1,849	344	323	47	9	16	282	7	2	2	1	2	8	260	3,152
	(58.7)	(10.9)	(10.2)	(1.5)	(0.3)	(0.5)	(8.9)	(0.2)	(0.1)	(0.1)	(0.0)	(0.1)	(0.3)	(8.2)	(100.0)
R2年度	598	133	118	11	8	5	132	1	1	1	1	(0.0)	7	100	1,116
	(53.6)	(11.9)	(10.6)	(1.0)	(0.7)	(0.4)	(11.8)	(0.1)	(0.1)	(0.1)	(0.1)	(0.0)	(0.6)	(9.0)	(100.0)

表3 相談者の続柄

続柄	件数	割合
母	996	89.2%
本人	61	5.5%
父	51	4.6%
配偶者	1	0.1%
祖父母等	3	0.3%
きょうだい	0	0.0%
専門家等	0	0.0%
その他	1	0.1%
不明	3	0.3%
合計	1,116	100.0%

表4 相談対象者

	件数	割合
子ども	1,049	94.0%
本人	61	5.5%
孫・甥・姪等	2	0.2%
配偶者	1	0.1%
きょうだい	0	0.0%
患者等	0	0.0%
その他	1	0.1%
不明	2	0.2%
総計	1,116	100.0%

表5 時間帯と所要時間

所要時間	17時台	18時台	19時台	20時台	不明	合計
5分未満	45	56	43	38	0	182
	15.6%	17.2%	15.1%	17.5%	0.0%	16.3%
5～14分	143	169	147	124	0	583
	49.5%	52.0%	51.6%	57.1%	0.0%	52.2%
15～29分	55	65	66	40	0	226
	19.0%	20.0%	23.2%	18.4%	0.0%	20.3%
30～44分	33	22	21	11	0	87
	11.4%	6.8%	7.4%	5.1%	0.0%	7.8%
45～59分	8	11	4	4	0	27
	2.8%	3.4%	1.4%	1.8%	0.0%	2.4%
60分以上	5	2	4	0	0	11
	1.7%	0.6%	1.4%	0.0%	0.0%	1.0%
全体	289	325	285	217	0	1,116
	25.9%	29.1%	25.5%	19.4%	0.0%	100.0%

表6 曜日別状況

	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	全体
H23年度 (1日平均件数)	1,055 (23.4) 19.2%	1,165 (22.8) 21.2%	1,149 (23.4) 20.9%	1,056 (21.6) 19.2%	1,063 (20.8) 19.4%	5,488 (22.4) 100.0%
H24年度 (1日平均件数)	946 (19.7) 19.2%	1,033 (20.7) 21.0%	1,107 (22.1) 22.5%	871 (17.4) 17.7%	966 (18.9) 19.6%	4,923 (19.8) 100.0%
H25年度 (1日平均件数)	791 (19.3) 17.7%	966 (18.9) 21.7%	968 (19.0) 21.7%	842 (17.2) 18.9%	894 (17.2) 20.0%	4,461 (18.3) 100.0%
H26年度 (1日平均件数)	642 (15.3) 17.0%	784 (16.0) 20.8%	868 (17.0) 23.0%	704 (13.8) 18.7%	775 (15.2) 20.5%	3,773 (15.5) 100.0%
H27年度 (1日平均件数)	644 (15.0) 17.6%	750 (15.6) 20.5%	787 (16.1) 21.5%	691 (13.5) 18.8%	795 (15.6) 21.7%	3,667 (15.2) 100.0%
H28年度 (1日平均件数)	637 (14.8) 18.8%	736 (15.3) 21.7%	718 (14.7) 21.2%	647 (12.7) 19.1%	652 (12.8) 19.2%	3,390 (14.0) 100.0%
H29年度 (1日平均件数)		736 (15.0) 26.2%	774 (15.2) 27.6%	615 (12.1) 21.9%	683 (13.4) 24.3%	2,808 (11.6) 100.0%
H30年度 (1日平均件数)	512 (10.4) 16.2%	722 (14.7) 22.8%	717 (14.1) 22.7%	600 (11.8) 19.0%	613 (12.0) 19.4%	3,164 (13.1) 100.0%
H31年度 (1日平均件数)	513 (12.8) 16.3%	661 (13.2) 21.0%	741 (14.8) 23.5%	616 (12.6) 19.5%	621 (12.2) 19.7%	3,152 (13.1) 100.0%
R2年度 (1日平均件数)	76 (3.8) 6.8%	351 (7.3) 31.5%	305 (6.5) 27.3%	278 (5.8) 24.9%	106 (4.6) 9.5%	1,116 (5.6) 100.0%

表7 相談分類

	件数	割合
育児相談	1,066	95.5%
母性相談	19	1.7%
思春期相談	13	1.2%
家族の心と体の相談	8	0.7%
その他	10	0.9%
合計	1,116	100.0%

表8 育児相談の曜日別状況

内容	全体		内訳									
			火曜日		水曜日		木曜日		金曜日		土曜日	
子供の病気、手当	311	29.2%	22	28.9%	90	26.1%	82	27.0%	71	26.1%	46	44.2%
家族・人間関係	201	18.9%	16	21.1%	62	18.0%	56	18.4%	54	19.9%	13	12.5%
事故相談	168	15.8%	9	11.8%	50	14.5%	51	16.8%	42	15.4%	16	15.4%
日常生活	99	9.3%	10	13.2%	33	9.6%	24	7.9%	22	8.1%	10	9.6%
授乳	58	5.4%	1	1.3%	15	4.3%	13	4.3%	26	9.6%	3	2.9%
性格、行動、社会性	51	4.8%	4	5.3%	18	5.2%	19	6.3%	9	3.3%	1	1.0%
教育	73	6.8%	3	3.9%	32	9.3%	12	3.9%	20	7.4%	6	5.8%
食事に関する問題	26	2.4%	1	1.3%	8	2.3%	8	2.6%	6	2.2%	3	2.9%
発育・発達	45	4.2%	4	5.3%	11	3.2%	19	6.3%	9	3.3%	2	1.9%
予防接種	12	1.1%	1	1.3%	8	2.3%	1	0.3%	1	0.4%	1	1.0%
アレルギーに関する問題	7	0.7%	2	2.6%	3	0.9%	1	0.3%	1	0.4%	0	0.0%
社会資源の活用	3	0.3%	0	0.0%	1	0.3%	1	0.3%	1	0.4%	0	0.0%
虐待・虐待予防	9	0.8%	0	0.0%	3	0.9%	5	1.6%	3	1.1%	0	0.0%
SIDS相談	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他	3	0.3%	3	3.9%	11	3.2%	12	3.9%	7	2.6%	3	2.9%
計	1,066	100.0%	76	100.0%	345	100.0%	304	100.0%	272	100.0%	104	100.0%

表9 育児相談(1,066件)の主な内容

	①	件数		②	件数		③	件数	
		子供の病気、手当	311	(29.2%)	家族・人間関係	201	(18.9%)	事故相談	168
主な内容	かぜの症状	92	29.6%	育児不安	115	57.2%	誤飲・誤嚥	60	35.7%
	消化器症状	81	26.0%	家庭内の人間関係	64	31.8%	転落	47	28.0%
	皮膚症状	51	16.4%	近所との付き合い方	13	6.5%	衝突	25	14.9%
	感染症	8	2.6%	職場関係	6	3.0%	転倒	18	10.7%
	薬に関する相談	6	1.9%				熱傷	1	0.6%

	④	件数		⑤	件数		⑥	件数	
		日常生活	99	(9.3%)	教育	73	(6.8%)	授乳	58
主な内容	泣き	33	33.3%	小学校	36	49.3%	授乳方法	26	44.8%
	睡眠	10	10.1%	幼稚園、保育園	28	38.4%	吐乳、溢乳	18	31.0%
	しつけ	9	9.1%	中学校	6	8.2%	乳汁を飲まない	4	6.9%
	トイレトレーニング	9	9.1%				授乳と薬	4	6.9%

	⑦	件数		⑧	件数		⑨	件数	
		性格、行動、社会性	51	(4.8%)	発育・発達	45	(4.2%)	食事に関する問題	26
主な内容	言うことを聞かない	32	62.7%	精神発達	17	37.8%	離乳食・幼児食	12	46.2%
	落ち着きがない	7	13.7%	発育の評価	14	31.1%	飲まない、食べない	10	38.5%
	習癖	3	5.9%	言語発達	5	11.1%	食事のしつけ	1	3.8%
	いじめる、いじめられる	2	3.9%	運動発達	1	2.2%	離乳準備	0	0.0%
	赤ちゃん帰り	1	2.0%						

	⑩	件数		⑪	件数		⑫	件数	
		予防接種	12	(1.1%)	虐待・虐待予防	9	(0.8%)	アレルギーに関する相談	7
主な内容	副反応	8	66.7%	親への支援	7	77.8%	食物アレルギー	6	85.7%
	接種時期・方法	3	25.0%	子供への虐待	2	22.2%	気管支喘息	1	14.3%
	効果	1	8.3%				アレルギー疾患全般	0	0.0%

	⑬	件数	
		社会資源の活用	3
主な内容	子育て支援	3	100.0%

編集	あいち小児保健医療総合センター 保健センター保健室 〒474-8710 大府市森岡町七丁目 426 番地 TEL 0562-43-0500 内線 4042
発行	令和3年7月